

# 評価結果報告書

## 地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	<b>11</b>
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	<b>2</b>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<b>6</b>
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<b>11</b>
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
<b>合計</b>	<b>30</b>

事業所番号	2371501251
法人名	医療法人香徳会
事業所名	医療法人香徳会グループホームよつば
訪問調査日	平成 19 年 11 月 13 日
評価確定日	平成 19 年 12 月 12 日
評価機関名	特定非営利活動法人『サークル・福寿草』

**○項目番号について**  
 外部評価は30項目です。  
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。  
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。  
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

**○記入方法**  
 [取り組みの事実]  
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。  
 [取り組みを期待したい項目]  
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。  
 [取り組みを期待したい内容]  
 「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

**○用語の説明**  
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
 家族 = 家族に限定しています。  
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。  
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。  
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

# 1. 評価結果概要表

## 【評価実施概要】

事業所番号	2371501251
法人名	医療法人香徳会
事業所名	医療法人香徳会グループホームよつば
所在地	名古屋市名東区上社3丁目2002番地 (電話)052-701-3131

評価機関名	特定非営利活動法人『サークル・福寿草』
所在地	〒453-0021 名古屋市中村区松原町1丁目24番地 CONBi本陣 N2
訪問調査日	平成19年11月13日 評価確定日 平成19年12月12日

## 【情報提供票より】(平成19年 10月31日事業所記入)

### (1)組織概要

開設年月日	平成 17 年 11 月 1 日
ユニット数	2 ユニット 利用定員数計 18 人
職員数	9 人 常勤 5 人, 非常勤 5 人, 常勤換算 8.3

### (2)建物概要

建物構造	木造平屋造り		
	1 階建ての	1 階 ~	1 階部分

### (3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	105,000 円	その他の経費(月額)	24,000 円	
敷 金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 500,000 )	有りの場合 償却の有無	有	
食材料費	朝食	350 円	昼食	500 円
	夕食	500 円	おやつ	150 円
	または1日当たり 円			

### (4)利用者の概要(10月31日現在)

利用者人数	17 名	男性	8 名	女性	9 名
要介護1	2 名	要介護2	2 名		
要介護3	6 名	要介護4	6 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 84.4 歳	最低	72 歳	最高	100 歳

### (5)協力医療機関

協力医療機関名	医療法人香徳会 メイトウホスピタル
---------	-------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

地下鉄東山線上社駅を南へ徒歩5~6分の幹線東山通沿いに、同一法人が運営しているメイトウホピスタルがあり そのすぐ南の閑静な住宅街の中に「グループホームよつば」が建てられている。木製の門扉すぐ左にあるインターホンを押すと、奥から返事があり職員がすぐ飛び出してきたところよく迎え入れてくれた。ホームは、玄関を中心に左右2ユニットの木造平屋建てであり、フロー、廊下ともに広々としている。このホームは、最高齢が100歳、平均年齢は84.4歳であり、全般的に介護度の高い利用者が多くなっている。当ホームは、“いつまでもその人らしさを大切に”という理念に基づき、地域に根ざしながら利用者は優しい職員に見守られて介護を受けながら暮らしている。

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	毎朝の申し送り、午後および夕方夜勤者への引き継ぎが必ず行われている。毎週火曜日にはケアの方針を中心に話し合い、月1回は研修参加者からの報告をもとに職員全員で資質向上に向けた勉強会を行うことが定例化できるようになった。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	管理者及び職員は自己評価をすることについて意義があると実感している。自己評価票作成時には、職員の意見や思いを自己評価票の中へ入れたことにより、取組みを期待したい項目が多く出された。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は2か月ごとに開催され6回目を迎えている。施設長、ケアマネジャー、利用者とその家族、民生委員、区政協力員、女性の会のメンバーが参加している。主な討議内容は、防災、各種行事開催の件、そして町内会・自治会加入についての申し入れに対し現在関係者間で討議されている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	職員は、家族への対応について訪問時や毎月発行の「よつば通信」により現状報告し、より交流が深まるように働きかけている。金銭管理は個人別に毎月家族へ出納帳をコピーして領収書と共に送付している。家族の会を次回は1月に予定している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町内会・自治会への加入については、運営推進会議が順調に行われ、メンバーに関係者も入っているため、早急に加入実現に向けて検討している。地域にある女性の会から16名の会員が登録され、複数で曜日を変えボランティアとして活動されており、地域住民とのふれあいの機会となっている。

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ホームでは、事業所独自の理念“いつまでもその人らしさを大切に”として、基本方針を職員間で理解し地域の中で生活していくための支援を理念の柱においている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員は、採用時に法人の理念と事業所としての理念の説明を受け、常に理念に沿ったケアを実践している。職員手帳を作りその中にもホームの理念が盛り込まれている。12月には全職員に配布され携帯を義務づけ、有効活用すると共に日々のケアに役立てることを目指している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ホームでは、4月28日を「4/28=428=よつばの日」と位置づけており、地域へチラシを配り、家族へも案内を出して来てもらい、夕食、ビール、ジュース、金魚すくい等で楽しむ機会をつくっている。女性の会からのボランティア活動もあり、早急に町内会、自治会へ加入し、地域に根ざしたグループホームにしていきたいと努力している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価を受けることについては、とかく見えていなかったり、あきらめていたことを発見する気づきがあり、管理者及び職員は意義があると実感している。ケアプランの充実やケアカンファレンスの実行、職員間での記録による情報の共有については、外部評価による成果でもある。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回で6回目を迎える運営推進会議での討議から、その内容を全職員へ伝えるとともに、職員からの意見や思いも会議へ反映させている。次回(1月)に行われる運営推進会議には、消防団の方にも加わってもらうことを予定している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	行政機関との関わりについては、現状では具体的な連携はないが、社会福祉協議会実施のボランティア受け入れ会議に出席している。また、区の事業者対象の連絡会については、積極的に継続参加していくこととしている。	○	今後の取り組みとして、区政協力員、自治会、民生委員、女性の会等、地域住民との交流を深めながら、運営推進会議を通じて行政機関との関係を築いていくことについても求められる。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	ホームでは、「よつば通信」を毎月発行して利用者の様子を家族へ知らせ、その中で行事予定の案内や家族の来所を促している。状況によっては、ホームから利用者が使用する衣類、オムツ、日用品を都合の良い日に持参されるよう依頼し、ふれあいの時を過ごしてもらい、そのときに、日頃の様子や体調等について詳しく担当職員と話し合える機会にしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	職員は、面会に来られたときに家族から要望や希望を聞き出し、意見については採り入れるようにしている。転ばせない、かぜをひかせない等、職員間で解決すべき件は、すぐケア会議で検討実施している。納付書での納金を口座引き落としにしてほしいという要望については、法人としての手続きになるため、現在検討中である。	○	家族や訪問した人が、その思いを自由に表現できる機会として、意見箱等の活用により運営に関する意見が反映される仕組み作りを期待したい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	介護度が高い利用者や高齢の利用者が多いこともあり、一人ひとりに職員が支援できる固定担当が難しいのが現状である。ホーム内では、職員の個々の持っている能力、技量、経験により、その都度の対応を全職員で全利用者を対象として支援している。	○	今後はユニット毎に職員を固定して、顔馴染みの職員による生活支援に心がけ、より一人ひとりに寄り添える工夫を期待したい。
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	当ホームは運営法人が医療法人のため、病院、訪問看護もあり、職員はグループの目標や個人目標をたてスキルアップの機会があり自己研鑽に励んでいる。職員は、グループホーム連絡協議会へ出席して情報収集したり、外部団体開催の認知症ケア、ターミナルケア等の研修に参加して、毎月行う勉強会で報告し情報の共有を図っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ホームは、名古屋市グループホーム連絡協議会へ加盟している。その交流会や運営法人内の地域連絡会議に担当職員が参加して、サービス向上に努力している。さらに当運営法人の他のグループホームの職員とは、そのホームへ職員が出向いて交流するとともにそこで学ぶことも多い。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	病院、通所リハビリに、当ホームのチラシが置いてあるので、家族や利用者は容易に「グループホームよつば」を知ることができる。紹介により希望者は見学に来ている。本人の納得が得られるように数日間体験入居する人もあるが、見学のみで決める人もいる。ホームとしては、入居時が大切と考え、利用者を交えて家族と今後の生活について細かく相談している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	当ホームは車椅子の利用者が多く、日常生活が制限されることも多いが、その人の持てる能力や若い頃得意としていたことを自発的に引き出すよう、「その人らしさを大切に」という理念の元にケアに取り組んでいる。職員は利用者と一緒に歌ったり、食事の片づけを手伝ってもらったり、ゴミ出し日には台車を押して職員と一緒に指定場所へ行ったりしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は、利用者一人ひとりとは違うという認識で本人の意向を言動から把握に努めている。意思疎通の困難な利用者に対しては、家族やケアマネジャー、病院の関係者から情報を得て可能な限り日常生活に寄り添うようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ケアの中でも医療に関する分野については、病院と連携して細やかに対応出来ている。成年後見人制度を導入している利用者もある。本人は外出したいのに、家族は転んだり風邪を引くからさせないでほしい、というように思いや希望が違うこともあるが、できる限り利用者本位の介護計画になるように努めている。	○	事前に細かなアセスメントを作り、月4～5回ケア会議を行い、その人らしい個性のある暮らしが出来る利用者本位の介護計画を、その都度見直しながら作成するようにしたい。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	朝・昼・夕と毎日3回の申し送りの中から利用者の現状は常に詳細に共有できている。対応出来ないことが発生し介護計画の見直しの必要が生じたときには、即現状に応じた工夫をすると共にケア会議を開催するようにしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	緊急時や利用者が不安な時は、本人、家族の要望があれば夜間でも面会して相談に応じたり、家族に宿泊してもらったりしている。人工透析が必要な利用者には、職員が送迎を行い、入居直後で心身に不安を持つ利用者には家族が1か月間宿泊されたこともある。現在その人は落ち着いてホームでの生活も安定し		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホームでは、利用者がなじみのかかりつけ医にも通院できるようにしているが、現在はほとんどの利用者が提携医に受診している。他に毎週2回歯科医の往診があり、眼科の往診が月1回ある。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度になっても支援できるように、ホーム独自のターミナルケアの事前指定書を作成し、入居時に家族への説明は十分に行っている。その他に、年1回(毎年1月)開催する家族会において、希望を聞きながら特変時も柔軟に対応できるケア体制を確認している。職員間でも外部の研修へ参加したり、全員が対応できるよう技術の向上に向けて努力している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	新入職員に対しては、採用してから1か月以内に研修を行っている。採用時から3か月以内に行う研修や法人として教育委員会開催の研修に参加してプライバシー確保の徹底に留意している。ケア会議で話し合っ共有する記録の書式を決めている。	○	室内の扉は閉めてケアを行うことやトイレも急ぐと開放したままであるが、職員はその人の尊厳を大切に、プライバシーを損ねないような言葉かけやさりげない誘導により、一人ひとりの生活を大切にしながら接していくことを期待したい。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員側の都合でとかく業務が優先されがちだが、その人のペースを大切にしたいという思いでケアに取り組んでいる。さらに、職員は利用者との会話を大切にしながら接している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材購入へ同行出来る利用者もあるが、高齢で車椅子の利用者が多いため、調理、配膳、片付けなどは共に行うことが困難というのが現状である。現状では、共に楽しむというより食事は職員が準備し片付け、食事中は静かになってしまっている。	○	職員は、可能な限り利用者の残存能力を活かしながら、自発的に行動し共に生活しているという意識が持てるよう促し、食事を楽しむことができるような支援を期待したい。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	車椅子の利用者が多い現状から、車椅子のまま機械浴で入浴できるようになっている。こだわりのシャワーを使用する人もある。入浴は毎日可能だが、入浴を拒否する人には翌日に違う時間帯や携わる職員を変えて促し、必ず入浴してもらっている。	○	今後の取り組みとして、利用者が家庭にいるときと同じような感覚で過ごすことができるように、重度の利用者も浴槽で入浴できるような取り組みにも期待したい。
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	現状では、庭の手入れ、調理の手伝い等が難しい利用者が多い。気晴らしや楽しみごとを持てるように促すが、とじこもり症候群状態の利用者もある為苦慮している。一緒におやつ作り、ゲーム、歌を歌ったり、リズム体操したり、職員は気晴らしの工夫をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	職員は、天気の良い日には気分転換として散歩をしたり、希望する利用者には買い物に職員が同行している。決められた日時の外出については、家族や以前利用していたホームヘルパーに連絡して、外出の機会に対応してもらっている。職員はできるだけ利用者が容易に外出できるように配慮し付き添えるようにしている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	すぐ近くが東山通りで東名高速の入り口で車が多いこともあり、玄関には鍵をかけている。その鍵を開けて外へ出た時はブザーが鳴りすぐ職員が対応できるようにしている。中庭には24時間出られるようにしている。出たい雰囲気を察した時は職員がそれとなく寄り添い穏やかに過ごせるように心がけている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	現在オール電化でガスは使用していない。利用者で喫煙者はいない。ホームでは、4月に消防署の協力により利用者も交え出火を想定した避難訓練を行い、10月には職員を対象として初期消火、火災警報装置、消化器の使用法、非常ベルの止め方の学習を行った。関係病院敷地内の倉庫には3日分の食料と水を備蓄している。	○	職員は災害時落ち着いて行動ができるよう繰り返し訓練を行い、スムーズに避難誘導ができるように取り組みを期待したい。普段より災害について話し合い、職員間で意識の向上を図りながら、災害時には地域の協力が得られるような状況を期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分摂取量については、個人チェック表を作成して栄養士から助言指導を受けている。嚥下困難な利用者には食事の形態を変えている。同じ食材が重ならないように栄養のバランスを考えた献立になるように創意工夫している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホームの壁には、生活感、季節感が感じられるよう、手作りカレンダーを貼っている。トイレは、次の人が不快にならないように職員は必ず汚れを取っておくようにしている。中庭が見えて自力移動可能な利用者は、ガラス戸を開けたり閉めたり自由に出入りしている。天気の良い日には、ウッドデッキに出て車椅子の利用者は日光浴を楽しむことができるようにしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホームでは、利用者が長年愛用した調度品や本人好みの物の持ち込みが自由になっている。職員は、整理整頓は手伝うが設置・レイアウトは家族や利用者が行っている。小型冷蔵庫を置いて居室内で好みの飲食摂取もできるようにしている。		